

寄稿

巖谷小波日記 翻刻と注釈

明治三十八年（一月〜四月）

小波日記研究会

《まえがき》

ここに翻刻する巖谷小波の資料は、明治三十八年「当用日記」の一月一日から四月三十日までである。翻刻にあたっては、従来と同様、原則として削除された箇所は省き、削除されていない文字はすべて翻刻するように努めた。特記すべき点があれば、各日の末尾に注で示した。

平成三十年十一月二十一日

猪狩 友一
木村八重子
竹田 修
中川理恵子
(五十音順)

《本文》

明治三十八年 当用日記

一月一日（日） 晴

〔四方拝〕

団欒祝儀

朝九時出で 辻氏、日下部、長松、大橋ら
を經、本町 大橋及博文館、帰途 元園町

両膝下に参賀、又日下部にも赴く

〔中食〕 日下部兄公と謡曲二番

四時帰途 石橋による

五時 西村及 年峰氏来賀 小酌

夜無事 カルタなど

〔一行あき〕

本日 旅順降伏の報あり

〔入〕 越高 40,000

〔出〕 源蔵祝儀 50

〔注〕 *日下部にも「日下部」と「にも」の間に一文字（「兄」か）見えるが、削除されたと見なす。

一月二日（月） 晴

終日在宿

午前 小峯徳田来賀、又太田南岳〔食事〕

午後 春生冬生、押川、千葉来、夕方皆々去

夜 カルタなど

本日横須賀窪田氏へ打電 明日行く事を約す

〔注〕 *（食事：閉じのカッコ）なし。

一月三日（火） 晴

〔元始祭〕

朝八時半 新橋発 千葉と向横須賀

十時半着 窪田氏来迎ふ（車中秀島

中佐に會す）一寸水交社に憩ひ 後田戸

*小松屋に赴く 中食、窪田、海戦談を聞く

四時去て 小松の別荘に赴く 時に押川来合

夕方より酒席 客、小福、久松、明石来訪 時に雨来

汽車に遅れ、遂に一泊に決し 東京へ打電

〔一行あき〕

皇孫第三王子御降誕

〔出〕横須賀旅費 2,222

其他車代 40

菓子 80

【注】*水交社：海軍将校の親睦団体。『横須賀案内記』（軍港堂、明治四十年）に、横須賀水交社は「軍港南門の入口右方にあり海軍将校の休憩娯楽又は宿泊の場処とす」とある。*小松屋：横須賀田戸海岸の料亭。*雨来：「雨」は別字の可能性も。*皇孫第三王子：高松宮宣仁親王。大正天皇（当時は皇太子）の第三皇子。

一月四日（水）晴
朝十一時二十五分帰京の途に上る 途に佐々木信綱氏夫妻
子息、福岡秀猪氏に會ス
二時新橋に着 壺屋にて小憩、それより明治屋
により 窪田氏への祝品切手注文（木曜會の名儀）本町
に出勤 例年今夕の新年宴延期の由
四時帰
夜 明日の福引考案

〔出〕明治屋切手 5,000

【注】*福岡秀猪：法学者（一八七一～一九三三）。

一月五日（木）晴

〔新年宴会〕

午前九時出勤 源蔵不來即ち途より上車

午後一時半 青山墓地山田新一郎氏

父氏葬儀に會す 日下部兄公に會し共に帰宅

三時よりかるた會 々者五十名斗り、

窪田、廬、金沢、矢野（共に四聯隊中尉、金沢氏は

横田みよ女の良人也） 十時散

【注】*山田新一郎：内務官僚（一八六四～一九四六）。称好塾出身。

一月六日（金）晴午後雨

十時出勤（電車にて）此前津田武来

午後四時半 亀清行 博文館新年宴、窪田

氏歓迎、同氏海戦談あり 九時石橋氏と電帰

【一行あき】

玉井へ統計年鑑を送る

〔出〕統計年鑑 2,500

一月七日（土）晴

自本日源蔵解雇、前告新車夫を伴ふ

日露戦史附録艸 四時帰

【一行あき】

本日東京市旅順祝捷會、

〔出〕勇へ貸 5,000

一月八日（日）晴

午前辻氏来 又西村来

午後一寸元園町により父上と北村氏超然會

に赴く

高砂、景清_{トモ} 小塩、弱法師_{シテ} 鞍馬天狗

吉例福引あり 後七時前紅葉館早

稲田大學出版部招待に赴く 大橋坪谷

二氏と共に 十時帰 別席鳴雪翁あり

連句など

〔出〕超然會 500

一月九日（月）晴

電車出勤

午後二時帰

三時後竹内佐太郎来 例の件は、決定

柳原家より 第三皇孫殿下御命名御祝儀

交倉宮中よりの物と贈 即ちそれを石橋、竹貫、西村、黒田へ分配
夜千葉、押川来 木曜會口演會の件
〔出〕 妻人へ白人會空也歓迎會通知用 1,000

一月十日(火) 晴

朝番町大橋氏二より武内桂舟婚儀の件に付き田代氏へ交渉の件托ス 後桂舟二より 十一時出勤
午後 二時帰

三時 竹内佐太郎来 例の件先方讓歩の由大畧決之

夜 林、大田来 又黒田来狂言打合

〔注〕 *大田来：「大田」と「来」の間、一文字分空白あり。

一月十一日(水) 晴

朝九時出勤

番町大橋氏より電話 即十一時之に赴き夫人

及桂舟氏と婚儀件打合 後藤沢たか女招き来

五時去て 元園町ニ赴く 夕食

夜八時帰宅

一月十二日(木) 晴

欠勤 欠校

午前 桑田春風来 葉書貸

又加藤正治氏紹介遠藤廉治来印刷工場

へ紹介依頼

午後一寸電話亀清注文

*水原會の榎艸鹿塩へ送る

夜画葉會(木) 廬来り

うどんあみど

〔注〕 *加藤正治：法学者(一八七二—一九五二)。

*水原會の榎艸：「水

原會」「榎」は未詳。「原」「榎」は別字の可能性も。
字より大きく記されている。 *廬来り：他の

一月十三日(金) 晴

十時出勤

午後五時 亀清行 木曜會空也歓迎會

會者十七名、但し大町、久保田も来合す

十時皆々と電帰

一月十四日(土) 雨夜晴

朝桂舟による市松葉書代拂 十一時出勤

午後 五時後 青年會に赴く 製艦費

献金口演會、国府大町、余、(舟と文学)

吉水氏琵琶、中村春吉、及空也海戦

談 十時後帰

〔出〕 市松拂 10,000

斬髪 75

一月十五日(日) 晴風

午前 柳原氏 次で 前田不三、福田、永廻来

午後 二時出で 都筑氏を訪 不在 紅葉館行

白人會 空也氏歓迎會 々者十四名

十時後帰 (會費各四円、空也より十円、舞踏費十五円渡す)

〔入〕 総會費 52,000

空也 10,000

〔出〕 紅葉館拂三度分 21,300

會費 4,000

祝儀 15,000

〔注〕 *永廻：『新撰倫理教育問答』(博文館、明治三十六年九月)の編者。

永廻藤一郎か。同書の広告文には「編者永廻氏は多年教育界に在つて倫理教育の教授を親しくし文筆又た之に従事せしの実験あり」とある。
*62,00:「52,00」と「10,00」の合計であろう。原文では「空也」及び数字は横書きで、「空也 10,00」と「62,00」の間には一本の線が、「62,00」の下には二重線が引かれている。

一月十六日(月) 陰晴

朝 千田時次郎来 言文一致會口演の爲黒石氏へ

紹介

十時出勤 亀清拂七十一円〇八銭*

午後 一時後青年會 実業子弟招待會

に赴く 口演(火の説) 五時帰宅

夜鈴木善太郎、江見紹介中村士徳

後辻氏隱岐泰造を伴ひ来

【注】*銭:原文の文字は金偏なし。*中村士徳:八木契三郎との共著

「考古学研究法」(春陽堂、明治三十八年)、大久保千濤との共著『本邦地理詳説』(博文館、明治三十九年)等がある。*隱岐泰造:滋賀県

の学校医。明治三十六年京都医学専門学校卒業、のち滋賀県の尋常小学校、水口農林学校、水口中学校などの校医となる(内務部教育課編

「滋賀県教育効績者事績概要」(大正十年)による)。

*一月十七日(火) 晴

十時出勤

午後一時渡部金秋死去ニ付悔みに赴く それより

大橋夫人を訪ひ 結納の件打合 二時帰宅

四時帰途 石橋氏と白牡丹に藤沢氏へ

の祝品指輪求 五時帰

夜 竹内佐太郎来

【出】武内へ祝品割 5,00

渡部香典 2,00

【注】*一月十七日:この日の記事は「一月十八日」のページに記されている

る。同様に、一月十八日は「一月十九日」に、一月十九日は「一月十七日」に記されている。「一月十八日」と「一月十九日」のページの上部欄外には「前」の字が、「一月十七日」の同位置には「後」の字が、それぞれ○で囲んで記されている。また、曜日欄の印刷文字も、それぞれ訂正されており、「一月十七日」のページでは、日付の「七」が「九」と上書きされている。おそらく、「ページ飛ばして記したことに、後で気がついたのであろう。ここでは日付を本来の順序にして翻刻する。

一月十八日(水) 晴夜雨

午前十時大橋氏より結納受取り赴武内(小林来合)

十一時後元園町二より中食 一時後去て藤沢氏

へ結納持参(石丸氏座敷にて) それより大岡

氏に赴く 五時帰途又 藤沢二より帰る

夜在宿

一月十九日(木) 曇

十時出勤 途に華族幼稚園に野口氏を訪ふ

午後二時 早稲田出勤 開講

夜木曜會、後押川、天溪を伴ひ来る

十時後散

一月二十日(金) 晴

九時 電出勤 庭升招待

午後 四時後 明治座さる屋に赴く 石橋、竹貫、千葉

西村、生田、大岡、福原、黒田、春生、小花ら同見

狂言 エルナニ、桜太郎後篇 場内川上夫妻

長田、松居らに會す 十時後帰

【出】さる屋祝儀 3,00

【注】*庭升招待:この部分、左行に寄せて記されている。庭升は、市川蓮升(二世市川左団次、一八八〇〜一九四〇)。この年三月、シラー原

作・巖谷小波翻案『瑞西義民伝』（ウイルヘルム・テル）が、蕙升らにより明治座で初演される。蕙升が左団次を襲名するのは翌三十九年。
*エルナニ：ユゴーの韻文史劇。一八三〇年初演。岡本綺堂『明治演劇年表』の明治三十八年に、「二月、明治座にてユゴーの『エルナニ』五幕を上演。松居松葉が八大伝の世界に翻案したるなり」とある。
*桜太郎：巖谷小波『お伽芝居』（博文館、大正元年）所収。

一月二十一日（土） 晴夕雨

九時後出勤 中央公論艸送

午後〇半 横濱に向ふ お伽くらぶ、口演

五時 横濱停車場食事 帰途につく

夜 無事 俳優など

〔入〕 お伽くらぶ 2,000

〔出〕 濱行 2,100

食事 60

一月二十二日（日） 雨午後晴

午前在宿

午後一時元園町に赴く 春生南岳と會し

共に日本橋俱樂部 葉書書画會に

赴く 會者十数名 岡田、窪田、寺

崎、久保田らも居合 十時帰

〔一行あき〕

不在中大岡夫人、竜男来年玉

〔出〕 書画會 1,000

一月二十三日（月） 晴

九時出勤 少年原稿艸

四時 言文一致會委員會に臨む 六時八洲亭

加野氏 送別會に臨む

七時半 大橋氏に赴く 夫人、谷氏及

武内氏と廿五日の件打合す

十時帰

武内氏より屏風被贈

〔一行あき〕

不在中青木亮貫来

〔出〕 押川へ講演分 10,000

一月二十四日（火） 晴

九時後出勤 其前米斎紹介木下某来画帖認

世伽第六十七艸 四時竹貫、武田と帰

〔一行あき〕

夜鈴木来 これを窪田に紹介す、記録上の為

勇、三一と散歩 一閑張を求む

〔注〕 *四時竹貫、武田と帰：この箇所、次行との中間に記されている。

録上：「上」は別字の可能性も。

*記

一月二十五日（水） 晴風

欠席 中學艸

午後辻姉来

二時 閉塞隊葬儀を見る

五時 八百勘に赴く 武内桂舟藤沢多嘉子

結婚 余媒酌、式後披露宴、大岡、大橋

石丸 其他友人親戚ら 三十名 十時散

一月二十六日（木） 晴曇

午前 女子大學卒業生 藤原千代 弘田、前川及長崎

四氏来 少年教育談 文學談等

早稲田出勤

夜木曜會 此間青木亮貫来

勇子を武内氏に遣はず

〔入〕 講演會費割戻 5,000

一月二十七日(金) 雨曇

九時出勤

午後 四時 上野三宜亭 白人會々者
十時帰 十三名

〔出〕 白人會 1,000

一月二十八日(土) 曇

朝 年峰による 画料渡ス 出勤

午後 二時半 言文一致會總會に臨む

文例 編纂案披露、中井、石川、樋口等ら
演説

五時後 文光堂画葉書求め 三十間堀

富貴亭に赴く 大坂武富氏歓迎

前田、小林萬吾、米斎、及び荷葉ら

〔入〕 俸 120,000 十時後帰
女學 22,000

〔出〕 富貴亭 5,000

勇 100,000

長谷川祝品割 1,000

文光堂 86

一月二十九日(日) 晴

午前 年峰次で永富 又庭升来テル閑ス

午後一時 番町小雅堂川中氏蘇生會謡

曲會に赴く 夕方より小宴

寺崎發會式に臨む筈断る

桂舟による不在 大橋夫人を訪 又木沢氏

により(父上を診察の禮) 八時帰

一月三十日(月) 晴

〔孝明天皇祭〕

〔二行あき〕
午前 東儀来
午後一時青梅より大下、鶴沢、小林、滝沢

四氏来 太田、春生、小峯 千葉、

年峰など来會 画葉會 米斎及
石橋氏も一寸来

夕方皆々にて三河屋食事

一月三十一日(火) 晴

九時出勤 書状其他の雜件

午後四時帰

夜 生田来 又 西村来

〔入〕 文げい 10,000
諸拂 1,200

〔出〕 諸拂 1,250

〔注〕 *諸拂:「1,200」「1,250」「80」を一括している。

二月一日(水) 曇夕電

九時出勤

少年臨時 笑山起艸

午後四時後一寸丸善により 内田其他と共に松本に
赴く 戦時画報社招待 文學會々者數十

八時後電を侵して帰る

〔入〕 35,000

〔注〕 *笑山:「少年世界」(明治三十八年二月十五日)掲載の「お伽歌劇
笑ひ山」。 *35,000:入金元の記載なし。

二月二日(木) 雪後晴

早稲田欠勤
少年臨時笑ひ山艸ス 午後脱稿
夜木曜會々者七名

二月三日(金) 晴

九時出勤 文藝小説起艸
午後四時帰る 武内氏に待合 夕食
夜高橋庭升来 テル演劇の件
又黒田、西村来れども談せずして去る

二月四日(土) 晴

九時出勤 文、小説艸(家の魔)
五時帰
高等学校生 島村盛助来 文學談
西岡来 報知入社によし
後 生田来

(入) 神田佐一より 5,000
口演謝礼

(出) 勇へ 5,000

【注】*家の魔：小説『家の魔』は「文芸倶楽部」(明治三十八年三月一日)に掲載された。

二月五日(日) 晴

午前 芹沢来
西彦夫人来食後去 鹿塩氏来
午後 三時頃 常盤木倶楽部 竹馬會出席
會者五十名斗 盛會なりし 九時帰
【注】*常盤木倶楽部：日本橋萬町にあった。

二月六日(月) 晴

九時出勤 日露戦史の第九起艸
午後四時後帰途元園町による 食後八時帰
入浴

二月七日(火) 晴

九時出勤 途に三越呉服店に春生祝品羽裏求又襟
午後五時 明治座日野屋より見物
長田川上の招待 玉冠、十時一幕
を残して帰る
(入) 書籍會社 2,000
唱歌稿料

(出) 三越 10,15

【注】*2,000：「2」の次に塗りつぶされた文字があり、仮に「0」だとすると「20,000」の可能性がある。

二月八日(水) 晴

九時出勤 戦史艸
午後四時帰
夜画葉書

二月九日(木) 陰晴

午前 十時出で 日下部氏に立より祝品
早稲田出勤
三時後帰途 武内により 又一寸大橋に
立より 小供病氣見舞
夜木曜會画葉書 題「金」
新聞記者 前田来 十三日を約し
去らしむ

二月十日(金) 晴

九時出勤 戦史本文稿料^{ママ}

五時後 湖月に赴く 金仙歓迎會

大沢文五郎、石渡秀吉氏等に初會

九時帰

(入) 中学分 13,000

(出) 勇へ保険料 25,000

湖月會費 5,000

二月十一日(土) 快晴

(紀元節)

木曜鎌倉行 空也氏に被招

會 鎌倉行 空也氏待合す

午前八時半新橋発 鎌倉行

長谷三橋に投ず 會者木曜會

湖、清、葵、嘯、南、春、大、曦^{*}、春浪、紫、

及米斎、若樹及夾日 病氣にて来らず

午後散歩 米、紫と玉突など

(出) 木會費 2,000

【注】*木曜會鎌倉行：この行は二行分使って記されている。

*曦：別字

二月十二日(日) 快晴

午前散會 清及葵と 横須賀に向ふ

良長院に磯を訪 此所にお伽俱樂部支

部發會の為也 口演(新堀取) 葵山

も一席演ズ

五時五分發 帰京 八時後竹芝館

秋聲會 空也、竹冷、碎月歓迎會

二赴く 夜来風邪の気味 十時後帰

(出) 秋聲會 1,500

横スカ帰途費 2,500

二月十三日(月) 曇

風邪欠席 横臥

夜新聞記者前田来 文士處世論談ズ

二月十四日(火) 晴

出勤

日露戦史艸

四時帰 夜延升及道具方来 道具打合

(入) 少年臨時笑山 60,000

(出) 勇へ 20,000

二月十五日(水) 晴

午前九時出勤 戦史稿了

四時帰

夜 原元蔵来 又 谷活東来為新家庭

家庭談

二月十六日(木) 晴

午前 戸寄谷来 戸川紹介、文學志望青年

十時元園町により それより早稲田出勤

四時帰

夜木曜會 古新居氏新来

【注】*戸寄谷：未詳。「戸」は文字を消して右欄外に記されている。「谷」

も左側に抹消の跡がある。

二月十七日(金) 晴

九時出勤 途に靴を求(銀座)

午後四時帰

夜 瑞西義民傳追加艸

(出) 靴 7,200

【注】*瑞西義民傳：一月二十日の注参照。

二月十八日(土) 晴

午前九時出勤

午後一時半 永田町婦人教育會に赴く 口演(女の氣)

園田孝吉氏同演 四時帰

夜文藝俳句選

島村盛助来 文學談

二月十九日(日) 晴 寒

午前 独乙協會生四名来 テルの件説明

千葉、小野田元良を伴ひ来 又鹿塩来

【一行あき】

午後二時 勇、三ひと元園町訪問、途に竹巧堂

にて棚求む

日下部兄上を訪 勇、三一先づ去る 此間一寸

夕方木沢氏来診

*Krebs 著明の由

八時帰

【一行あき】

今朝木佐同郷人本間義雄来投

【出】棚代 2、10

【注】*竹巧堂：「巧」は重ね書きされており、別字の可能性も。 *Krebs

…癌。

二月二十日(月) 雪後晴

九時出勤 世伽艸

十二時前兄上を監督署に訪ひ 木沢診断の件話す

四時帰る

夜日下部兄上来 琴納氏本日診察によれば

*Leberに故障あり Krebsに非ずとの事

【出】勇へ 3、00

【注】*Leber：肝臓。 *非ずとの事：「と」の右に「べ」と見えるが不明。 *3、000：「3」は重ね書きのため読みづらい。

二月二十一日(火) 晴

九時出勤

午後四時前 明治座中村屋に庭升を訪ふ 道具

の件 注意 去て中華亭に赴き 押川

及 長谷川を電話にて招き共食事

七時後去て上野 桜館 東儀伊原催しの

浦島研究会に赴く 清元梅吉及び岡安喜三郎

居合す 九時帰

【出】中華 6、00

【注】*清元梅吉：清元三味線方、二世。本名松原清吉(二八五四〜一九一

一)。 *岡安喜三郎：長唄岡安流家元、四世(二八四九〜一九〇六)。

*九時帰：次行との間(罫線上)に記されている。

二月二十二日(水) 晴

九時出勤 世伽第六十八脱稿

午後一寸 池田謙齊宅に福井氏を訪ひ父上診察依頼

三時後兄上を監督署に訪ふ 已去ル 直に元園町に

赴く 琴納氏来診、但し少々首を傾く体あり

夕食後 去て一寸兄上を訪ひ 又辻氏により

九時帰 生田居合ス

【入】戦史の九 50、00

【注】*池田謙齊：医師。日本近代医学の先駆者(二八四一〜一九一八)。

二月二十三日(木) 晴 朝風

午前九時後 生田の新居を訪 谷内居合

早稲田出勤 四時帰

夜木曜會 此際水谷景七来製本

器械説明 訳 依頼
〔出〕 勇へ筆筒代 10,000

〔注〕 *訳 依頼；翻訳の依頼か。

二月二十四日(金) 晴

九時出勤

午後四時帰途椅子を見に行く不調 一寸教育會により通俗教育會の件 武内による 木沢よりの注意を聞く

夕食後 元園町立より菊枝東上せり

又登代共なるよし 九時帰

三一発熱終夜冷水

〔注〕 *を聞く…この部分、左の行に記されている。その影響で次行の「東上せり」も左側にはみ出している。 *登代共なるよし：「代」と「共」の間に一文字見えるが、削除されたと見なす。

二月二十五日(土) 晴 朝風

九時出勤 其前戸崎曉来 子息の件

午後 三時帰宅

五時後勇と三河屋に赴く 春生数子本日結婚

披露、列席者、母上(父上病中) 日下部老人同夫人

兄公及夫人、武蔵夫人、美香、辻、同姉、永田氏ら

十時帰

〔出〕 勇へ 25,000

〔注〕 *春生数子…和子(かずこ)の「和」を「数」と記したか。和子は日下部鳴鶴の娘。

二月二十六日(日) 曇 寒

午前 小川煙村、牧野望東来

午後 高輪窪田を訪ふ 木曜會贈品持参 不在

又 尾崎氏を訪ひ 二時芝公園 福住

に赴く 白人會々者十四名等

〔出〕 白人會 1,300 雪 九時帰

二月二十七日(月) 雪雨

九時後出勤 途に元園町による

午後四時帰

夜 在宿

〔入〕 120,000 *

文げい 72,000

其他ニテ又生田、琴月分返

18,200

早 * 30,000

〔出〕 勇へ 150,000

元園町勅語代 20,000

館 諸拂 6,500

紅葉館拂 42,000

〔注〕 *120,000…入金元の記載なし。 *早…早稲田の略記か。

*6,500…「5」の字は「6」を書き直したか。

二月二十八日(火) 晴

朝藤田栄三郎来 窮迫の由 十円貸

午前十時出勤

午後五時館友ら明治座舞臺稽古

を見る 十一時帰

〔出〕 藤田へ 10,000

プラン 明、座ニテ 1,000

〔注〕 *ら…この文字は不鮮明で読みづらい。 *明、座…明治座の略記。

三月一日(水) 晴

九時出勤 木菟太郎紳

午後五時 明治座見物、新聞屋連と會す

瑞西義民傳 及勢獅子

十時半帰

〔入〕 * 50,000

【注】 * 50,000 : 入金元の記載なし。

三月二日 (木) 晴

終日在宿 早稻田欠勤

午前 伊原及 福原来 テル禮*

午後 日下部姉上来 次で菊枝登代

又辻姉上も来 五時皆香園に赴き

明日の事注文

夜木曜會

〔入〕 黒田より返、

【注】 * 禮 : 別字の可能性も。 * 黒田より返、 : 金額の記載なし。

三月三日 (金) 陰晴

午前九時後出勤 (途に煙艸及び煙艸入 (銀座) 求む

午後五時帰途皆香園 楽水會、余幹事

* 會者二十名 十時半散

木菟太郎艸了

〔出〕 楽會 1,000

煙艸 1,566

同入 * 4,000

6,566

【注】 * 余幹事 : この部分は次行に記されている。 * 木菟太郎艸了 : 行間に記載。

* 6,566 : 合計を記す。

* 木菟太郎艸了 : 行間

三月四日 (土) 風雨夕取

午前在宿

午後二時出勤

五時 明治座見物 (猿屋) より 木曜會及

博文館連中廿名 秋菊煙村も来

別席 穂積博士一行に會す

〔出〕 紅葉館拂

勇へ渡ス 42,000

猿屋 8,000

三月五日 (日) 晴

* 時後出で 淀橋柏木村 大町氏邸園遊

會に赴く 博文館友等廿名斗り

二時後去て元園町に赴き 日下部姉上

菊、春生、かず、登代らと明治座に赴く

勇も来る 窪田、同母、日下部兄公 廬、北星

辻、隠岐泰造 及西彦夫人及娘、孫女ら (猿屋

十時帰

〔出〕 さる屋男女 2,000

【注】 * □時 : □□ の文字は判読困難 (不明瞭)。
見当たらない。 * (: 対応する括弧は

三月六日 (月) 晴

九時後出勤

午後四時帰 車中矢部氏に會

夜 岩井夫人来 貞子對芹沢氏の件

間宮静霞氏来 父上に額面依頼

三月七日 (火) 晴

九時出勤

午後三時半福田、嶋文次郎氏を伴ひ来 共二出で

三十間堀米齋を誘ひ 木挽町みどりや食事

照吉、九時後去て 角田氏秋声會

十一時帰 但し角田方ニテ靴盗まる

(出) みどりや 11,000
車代 30

三月八日(水) 晴

午前九時後北村氏稽古 十一時出勤
午後三時 四番町林氏に人形を見 去て
坪内氏に赴く 朗読會連ヒ招、^{*}易風
會相談の件 夕食ヒ饗 十時帰

【注】^{*}易風會：坪内逍遙らにより、明治三十五年に発足した朗読研究会。
文芸協会(明治三十九年発足)の前身。

三月九日(木) 曇晴

午前 武田桜桃来 撮影書齋
十二時 早稲田出勤
午後三時半坂本柳川氏と戸山原邊散歩
新宿に出で電車 明治座に向ふ
さる屋にて早稲田大學連中四十三名
九時去て元園町に立よる 春生新婚
披露 木曜會小宴 十一時帰

三月十日(金) 晴

朝北村氏稽古、千手及鉢木
正午元園町食事 二時出勤
三時後武内による 尾崎未亡人及
岡田に會 五時後木沢に赴く不在
病室に石橋辰雄の病を訪ふ 夫人附添
又尾崎未亡人に會す 六時帰
辻氏居合 食後去
夜 歌劇會堤氏来

三月十一日(土) 曇

九時出勤
午後 斬髮後 築地活版所新築披露會に赴く
四時後 安田善三郎を送て 新橋に赴く 同善之
助及び伊臣同行 後 愛宕下町に肱掛椅子求
五時紅葉館行 高田、松平及青柳氏
支那行を送別會、九時後帰
不在中早稲田大學連より觀劇の礼として呉服
切符十円又西氏より同上トンプリ及裏地
(出) 肱椅子 24,000

三月十二日(日) 晴

午前永富、有樂社中村弥二郎及小川煙村来
又 金港堂石井松溪来 久留島妻来
午後元園町により皆香園超然會に赴く
五十回紀念會 千手シテ 鉢木ツレ(無本)
独吟楊貴妃 夜九時帰
(出) 超然會 1,000

三月十三日(月) 曇雨

九時後出勤 勇三二を賀古氏に伴ふ
午後四時帰
近事画報社より奇物選依頼
(入) 中学 15,000

【注】^{*}奇物選：「奇」は別字の可能性も。

三月十四日(火) 晴 暖

欠勤
午前 歌舞伎社鈴木春浦来 テル談
午後一時柳原伯の病を訪 二時和田英作を訪

病臥 三時後婦 古宇田某来 瑞西女記者
夕方 竹貫氏来 明治座見物の件
夜 小田原太郎来 画葉 即ち紹介
を与ふ

(入) 中央公論 10,000
(出) 勇へ 10,000

三月十五日(水) 朝雨午後晴

九時後出勤

午後四時元園町ニより 夕食後七時半

清風亭朗読會 新妹背山

十一時帰

(出) 清風亭 40

三月十六日(木) 曇夜雨

朝年峰来プロマイド写真被贈

十一時半 早稲田出勤 提灯行列相談あり

帰途北村氏けいこ

夜木曜會 画葉 土、小川煙村も来

三月十七日(金) 曇晴

九時後出勤

午後四時 安田銀行に赴き善三郎ニ會

共に小常警、長松伊臣同席夕食

ト饗 九時帰

三月十八日(土) 曇 寒

九時後出勤

午後一時 靖国社能楽堂 幼年護国会

催 能楽見物 新曲資時、船渡聲及

春栄 五時訪廬病臥 夕食

十時帰

三月十九日(日) 晴

朝冲舟来十一時冬生共ニ去ル

河原崎来 蕙升よりの挨拶つゝれ織帯

副島及芹沢来 副島去後芹沢と共に

いろはに赴く満員 去て六丁目洋食

三時辻氏ニより元園町 本日謡會延期

但し阪田、本野来合 即ち日下部兄上も

来り 松風、高砂

夕食後 九時帰

三月二十日(月) 曇夜雨

九時出勤 少年巻頭艸

午後四時 學士會 白人會に赴く 會者十二

夜に入り雨を侵して帰る

(出) 白人會 1,35

三月二十一日(火) 雪雨夕晴

春季皇靈祭

午前十時 日下部兄公を訪ふ 橋本昨日来診、父、矢はり

痛疾 五月警戒の由、十一時父上を訪

食後春生、日下部兄公らと謡曲 *三時帰

夜 鈴木善太郎来 *大橋光吉氏方

に赴キ葉書文學擔任の事決す

【注】 *三時帰：次行末尾に記されている。 *大橋光吉：実業家。明治二

十七年、博文館入社。三十一年、大橋佐平の三女幸子と結婚して姓を

大橋に改め、博進社印刷工場に勤務。三十七年、日本葉書会を設立

し、月刊「ハガキ文学」を創刊。三十九年には精美堂を創業。大正十

四年には、博文館印刷所と精美堂を合併して共同印刷を設立した(一

八七五〜一九四六)。

三月二十二日(水) 晴

九時出勤

午後五時帰途 北村氏稽古 勸進帳
夜 在宿

〔入〕沙河の巻 50,000

【注】*沙河の巻：巖谷小波編「少年日露戦史」〔第拾編（沙河の巻）〕（明治三十八年四月刊）。

三月二十三日(木) 曇

午前 吉田栄右来 畧写真真渡お伽噺英訳の故也

三省堂斎藤耕輔来 百科字書の件お伽噺部

午後一時元園町に立より 三時早稲田大學

に赴く、四時後より祝捷提灯行列會者

五千余名、宮城前萬歳三唱 日比谷

公園にて散會、独り 紅葉館食事

勇子北村氏ミシンけいこ 十一時帰

隠岐原稿料菊に渡す

【注】*十一時帰：前行「紅葉館食事」に続く記載。

三月二十四日(金) 雨

九時出勤

午後二時 川田豊吉氏を訪ふ（電話にて招話）

五時帰

夜黒田湖山 及 久保田米斎 時好依頼

三月二十五日(土) 曇晴

九時出勤 途に煙艸求

午後四時後 茅場町艸津亭奉天占領

祝捷會 博文館員及江見も来

九時帰

〔出〕煙艸 2,800

三月二十六日(日) 晴

午前十時より 木曜會、第十周年紀年

空也初め 南、四、夾、清、湖、嘯、春、紫、黄
春汀及余十二名、午後 隣家にて撮影

三時元園町に赴く、臨時超然會

春生新婚披露、後酒宴

小原御幸^{ワキ} 邯鄲 高砂

十時後帰 父上上機嫌

【注】*十時：「九」の上に「十」と重ね書きしている。

三月二十七日(月) 曇 寒

九時後出勤 桑田不在中來 容堂書翰幅貸

七軒町

午後一時後 第一高等女学校に赴く 卒業生

送別會 口演 お伽噺、貞水軍話

五時 廬を誘ひ 三河屋食事 後に

清風亭 一中節（俗曲研究会） 十時帰

〔出〕三河屋 1,200

清風亭二人分 800

*エンチャニ 200

【注】*七軒町：行間に小さく記されている。東京府立第一高等女学校（府

立一女）の所在地、浅草区七軒町（現台東区元浅草）。*エンチャニ

：未詳。

三月二十八日(火) 晴

九時出勤

午後三時帰途 美濃常二芹沢祝品求

夜七時 独乙公使館招かる、久保田

文部大臣 菊池男 其他教育関係者

内外四十名斗 十時帰

〔出〕 美の常 4,80

夕オル其他 ,60

三月二十九日(水) 曇晴

九時出勤 其前福田来即同行* (原稿持参)

午後四時 北村氏に赴く不在

夜六時半 竹芝館 芹沢氏結婚宴に

招かる 新婦岩井貞子 十時帰

〔入〕 早稲田 30,000

〔出〕 勇へ 30,000

〔注〕* (原稿持参…閉じのカッコ) なし。

三月三十日(木) 晴

午前在宿 黒田来

午後 早稲田出勤 四時帰

竹貫来 俸給持参

夜 木曜會、小川来

〔入〕 文げい選句 120,000*

〔出〕 勇 120,000

〔注〕* 120,000…入金元の記載なし。

三月三十一日(金) 晴

欠勤 午前 生田来

為時奴 臆病娘廿枚艸送之

三時 元園町に赴く 菊枝へ饞別

一寸北村氏けいこ、後又元園町夕食後

謡曲 同所にて 泰造、金三郎に會す

八時後帰る

〔入〕 日報社俳選料 10,000

〔出〕 五十回券 1,55

四月一日(土) 雨

午前九時出勤

午後 一時五十分新橋発 箱根塔の沢に向ふ

岡田、廬、池田、加藤 麥人、大森、箕作

大船より 窪田同行 白人會臨時會

夕六時後 環翠楼に入る

夜囲碁、画葉書製など 別室に

*坂田幹大氏在

〔入〕 30,000*

〔出〕 弁当代 4,000

車代 2,80

〔注〕* 坂田幹大…当時内務官僚だった坂田幹太(一八七九—一九五八)か。

* 30,000…入金元の記載なし。

四月二日(日) 曇

午前 俳會、清水晴月来

午後 滝の前散歩 夕方窪田、清水去る

夜坂田氏室にて謡一番 又囲碁

四月三日(月) 雨

〔神武天皇祭〕

午前十時 塔沢発 帰途につく

途中 久我と同車

二時後新橋着 加藤、廬、及岡田と紅葉

館行 九時帰

〔出〕 箱根行一切 16,000

四月四日(火) 雨後晴

九時後出勤 其前 牧野望東来

四時帰途 父上を訪ふ 食後 八時牛込
清風亭に向ふ 易風會相談會 坪内
伊原、池内氏居合 秋聲會を断る

【注】*牧野望東：俳人（一八七六—一九一三）。

四月五日（水）曇

朝渡邊修二郎来 又浅田妻（久留島の件）来
十一時後出勤
午後四時 歩帰
夜俳優

四月六日（木）曇雨

午後九時後 廬により後桂舟により木沢よりの潤筆
受取り、早稲田出勤 三年生試験問題
四時帰
夜 木曜會 土屋香葉来

四月七日（金）晴

九時出勤（福家に）
午後一時 水落を訪ふ不在 今日帰坂の由
工科大學建築科展覽會を見る
春生に會す 帰途温恭堂に筆
求め 四時帰
夕方より 元園町に赴き後 北村氏
稽古、途に 徳田秋江に會ス 何れへか
周旋依頼さる

【注】*福家に：意味未詳。 *四時帰：「四」は重ね書きのため判読困難
（あるいは「五」か）。 *何れへか：「れへ」は判読困難。別字の可
能性も。

四月八日（土）晴

九時出勤
午後一時 博進社新工場により 後 原町一行院
降誕會に臨む 談話 薔薇姫 其他
余興など 黒田、生田、西村及妻、五時
皆にて歩いて牛込に至り 電 帰
夜少年唱歌 東儀に送る
〔入〕画報 10,000
〔出〕煙艸 、96

四月九日（日）晴

午前土屋香葉来 早稲田生鈴木寿来運動會寄附
日本の家庭記者 沢田来 原稿依頼
西村来
午後十二時半 南岳を訪ふ 画藥品評會
大下、久保田、柳川、春生同席 中食
二時半超然會 安宅 勸進帳開き
他 鶴、西王母、俊成忠則 雲雀山及西行桜
八時後帰
〔出〕超然會 2,500

四月十日（月）晴曇

朝早稲田生 中原来 参考書貸
九時後 元園町に赴く 富森姉上昨夕上京
父上看護の為也 十一時出勤
午後 四時歩帰
夕方 早稲田商科生溝口雷太来昔晰翻訳の件
木村来、昨日帰京土産持参
黒田、西村来

四月十一日(火) 晴 (暖)*

欠勤

三省堂の為 百科全書材料口碑お伽噺の部

アよりウまで送る

午後 五時 新橋花月に赴く 三越招待

元禄踊見せらる 十時帰

新聞雑誌連中

自本日 土屋香葉来宿

鍵次郎 青山學院入學

木佐 開成中學 夜學校入學

【注】*(暖)：寒暖欄に印刷された「寒」の字を消している。

四月十二日(水) 晴

九時出勤 半休

午後 一時 竹貫、木村氏らと 日比谷公園

散歩 松本小憩 三時後帰

後 勇 三と 西村、黒田訪問

夜 在宿 画葉

四月十三日(木) 曇夜雨

欠勤(早稲田運動會休業中)

午前 桑田春風来 画葉俳諧貸す

午後 一時 元園町父上見舞 横田老母堂

日下部老夫人ら来合 四時帰

夜木曜會 画葉題水

内幸町出火 黒田、生田をして浅田、

勢琴、長与都新聞ら見舞はしむ

鈴木善太郎来 画葉貸

四月十四日(金) 雨

九時出勤

午後二時 メトロポールホテルにヘルチンスキーを訪ふ*

四時共に諏訪屋に古画見、日本橋通買物

丸善に伴ひ 六時別ル 富士見軒

食事、桂舟を訪ひ 八時半帰

〔出〕 富士見軒 車夫共 1,95

【注】*ヘルチンスキー：日本美術史家のフリードリッヒ・ベルチンスキー

か。四月二十一日の記には、「へ」を「べ」と記載している。

四月十五日(土) 晴

九時出勤

十一時 歌舞伎座やまより見物 同行水口、池田、東儀、永井、塩沢

妹背山、(一番目)のみ見物 去て西国伊せ平に

新詩社素人芝居見物(青年画家五幕)

九時帰

〔出〕 かぶき座 2,20

四月十六日(日) 晴

朝十時半発 横須賀お伽倶楽部に赴く

黒田湖山同行

倶楽部、良長院に於て開く、辨士、磯、田島

窪田中監、黒田 及余(久我夫妻らに會)

會後 米浦にて食事 後□□會俳

席(窪田方) 會者十四名

窪田方一泊

〔入〕 お伽くらぶより二人分 6,00

〔出〕 横すか行 5,50

【注】*十時半：「十」は重ね書きのため判読困難(「九」の上に「十」と書

いたか)。*□□會：「□」の文字は書き直して判読困難。

四月十七日(月) 雨

午前九時十二分 横須賀発 帰京 新橋

壺屋に食事後出勤 四時帰
夜俳句製

四月十八日(火) 晴

午前 元園町父上見舞 昨夕より軽快の由
一時出勤 午後四時帰

夜 水谷幻花、武田桜桃、竹貫ら来

又黒田来 画葉談

【一行あき】

今朝 和田英作来 白人會句の件

又牧野望東来 卯杖原稿渡す

【注】*卯杖：俳句雑誌(明治三十六年創刊)。主宰は牧野望東。

四月十九日(水) 曇(寒)

九時出勤

十一時前ベルチンスキー来 共に上野太平洋

日本画、巽、博物館等を見 精養軒

食事 お成道散歩 古画など見 三越

陳列場案内 後別れて帰館

四時 水鳥會(日本橋くらぶ) 二赴く

十時帰

【出】精軒 1,500

水鳥 1,500

【注】*(寒)：寒暖欄に印刷された「暖」の字を消し、「寒」の字を丸で囲んでいる。四月二十四日、四月二十八日の「(寒)」も同様。 *太平洋：太平洋画会の展覧会であろう。太平洋画会は、明治美術会の後身として、明治三十四年に満谷国四郎・吉田博らが創立した美術団体。 *巽：巽画会か。巽画会は明治二十九年、日本画家の松本楓湖らによって結成された。 *精軒：精養軒の略記。

四月二十日(木) 晴風夜雨

早稲田欠勤 読書

午後勇を 元園町に遣はす

夜木曜會

四月二十一日(金) 晴(暖)

九時出勤 三越へ使者遣はし時好分受取

午後二時 岡田来 誘はれて 新富座新喜

劇 曾我の家一座見物 無筆号外 新葛

葉、乳兄弟及 勸進帳

五時後去てホテルにベルチンスキーを誘ひ共に

歌舞伎座見物 露宮の夢、元禄踊

後銀座散歩 エビスヒーヤホールに立より

後 勇の為め傘求め帰る 九時

【入】三越より 35,000

【出】芝居 2,500

勇の傘 5,700

Bay Run 805

【注】*(暖)：寒暖欄に印刷された「寒」の字を消し、「暖」の字を丸で囲んでいる。 *曾我の家一座：曾我廼家五郎・十郎一座。明治三十七年に大阪浪花座において、日露戦争に材を得た喜劇「無筆の号外」で好評を博した。 *Bay Run：ベールラム(頭髮用の香水)。

四月二十二日(土) 晴曇

九時後出勤 正午後丸善買物、斬髪

午後四時半 清風亭に赴く 易風會

雅劇 稽古、坪内、伊原、竹柴ら来合

十時後帰

【出】斬髪 75

勇へ 19,000

【注】*晴曇：「晴」は欄外に記されている。あるいは「曇晴」か。

四月二十三日(日) 晴風

朝 青木磐雄氏来 大岡福原二少年来

十一時前 勇、三一、三四、大岡 福原、つね、山内らと
柏木 大町氏野遊會に赴く

三時半帰途につき 余は元園町父上

見舞 不機げん烈しき方 食後謡曲

八時後帰

四月二十四日(月) 晴(寒)*

九時出勤 其前中原来 貸せし本返済

午後五時後 帰宅

夜 伊藤松宇紹介 平林鳳二来俳短冊交換

及紅葉俳翰与ふ

【注】*(寒)：四月十九日の注参照。

四月二十五日(火) 晴風

九時後出勤

大岡育子 昨日死去のよし、即ち弔慰に赴く

午後一時後 小石川 元博進社、博文館印刷

工場新築落成式に招かる、園遊會

此間石橋氏らと植物園散歩 後歩して

上野精養軒晚餐會に赴く 不折に會ス

九時帰る

【注】*不折：洋画家・書家の中村不折(一八六六—一九四三)。この年、フ
ランス留学から帰国し、太平洋画会会員となった。

四月二十六日(水) 曇

風邪 欠勤

終日 在宿読書

夜 雀田空也氏来 弾片稿料手封として十円ヒ贈

(入) 空也より 10,000

(出) 勇へ 10,000

【注】*手封：「手付」のつもりか。

四月二十七日(木) 雨後曇

朝 石橋氏来

今朝大岡氏送葬 黒田に代理せしむ

早稲田 欠勤

読書 (萬二郎来萩其他苗植付幟鯉
を立つ)

夜木曜會

四月二十八日(金) 晴(寒)*

朝 竹貫来

九時出勤

午後二時後清風亭に赴く 俗曲研究會

及 易風會 雅劇 妹山背山(画葉書余
寄附す) 午後六時後開演

夜十時帰途 廬、池田 塩沢と明進軒に

電車にて帰る よる

【注】*(寒)：四月十九日の注参照。

四月二十九日(土) 晴

九時出勤 途に水入求(銀座)

午後二時斬髪 お茶の水より電車 角筈衛生園

四教會聯合親睦會に赴く、勇、富森姉上

を伴ひ行く(臨時少年の為めお伽噺)

四時後 姉上と元園町に赴く 父上四五日来

快方なり 可喜、食後冬生と囲碁

九時半帰宅

(入) * 120,000

女学 30,000

10,000

〔出〕 勇へ 150,000
高階へ 10,000

〔注〕 *120,000:入金元の記載なし。次の「30,000」も同様。

四月三十日(日) 晴風

午前来訪 筒井、浅井緑 及原元藏

午後一時 大岡氏訪問 甲句渡 浅田空花を

訪ひ 後 竹芝館 白人會に赴く

會者 九名 角田氏俳話

十時散

〔出〕 白人會 2,400

―前号の訂正―

前号掲載の「巖谷小波日記 翻刻と注釈―明治三十七年(十月)十二月―」に誤りがありました。左に訂正します。

十二月十六日 本文3行目

〔誤〕 百三十名 〔正〕 百三十余名

十二月十九日 本文3行目

〔誤〕 藤沢つる女 〔正〕 藤沢たか女

十二月二十一日 本文3行目

〔誤〕 によって 〔正〕 によりて

十二月二十三日 本文1行目

〔誤〕 市川葬 〔正〕 市川庭升

十二月二十六日 本文1行目

〔誤〕 校正物 〔正〕 校正場

十二月二十六日 本文2行目

〔誤〕 帰る 〔正〕 帰

十二月二十九日 本文3行目

〔誤〕 初笑 〔正〕 福笑

十二月二十九日 (入) 1行目

〔誤〕 燈 〔正〕 給